

## 日本医学会会長 高久 史麿様 祝辞

新入生の皆さん方、本日は入学おめでとうございます。私は今、医学会の会長をしておりますが、本日は医学会会長としてではなく、高木理事長先生の昔からの友人として、心からお祝いの言葉を申し上げたいと思います。

高木理事長は、1995年に国際医療福祉大学を創設され、私は8年間ほど国際医療福祉大学の評議員会議長を務めさせていただきました。本日ここに新しい医学部の開設を実現した高木先生の熱意と実行力に、心から敬意を表したいと思います。

私は今から45年前、自治医科大学ができたときに、最初の教員として参加いたしました。内科学の教授もやっていましたが、それと同時に教務委員長として、学生のカリキュラムを作ったり教育をしたりしていました。自治医大の卒業生は地元に戻って初期研修が終わったらあと僻地に行くわけですが、当時は卒業後の初期研修は自分の母校でやっておりました。しかも特定の講座・教室に入ってそこで初期研修を2年やる。しかしながら、そうなると非常に狭い範囲の研修しか受けられない。自治医大の1期生が卒業する当時はそういう状況でありましたので、私は卒後指導委員長になり、各県の担当の方に、自治医大の卒業生は初期研修が終わると僻地の第一線に行かなければならぬので、幅広い研修をしていただきたいとお願いいたしました。当然大学病院ではなく、県立病院などでいろいろな研修をしたのですが、それが結果的にはよかったです。1期生は非常に苦労いたしましたが、彼らはそれを乗り越え、地域医療のためにずいぶん活躍したわけであります。私が自治医大をしばらく離れまして、その後2008年に自治医大に学長として戻ったとき、各県を回りますと各市町村長の方が、自治医大の卒業生が地域医療にずいぶん活躍してくれると感謝の言葉をいただきましたし、また1期生の中には地域医療振興協会とか、地域医療機能推進機構という非常に大きな組織の理事長を務めたり、保健所長の会の会長をしたり、国民医療推進協議会の会長をしたり、また、保健文化賞をもらった1期生もあります。現在、自治医科大学がある程度の評価を日本の医療の社会で受けているのは、私はやはり1期生の卒業後の活躍が大きく貢献したのだろうと考えております。

ここに国際医療福祉大学医学部の1期生の皆さんにおられるわけですが、皆さん方には、この新しい国際医療福祉大学医学部の歴史を作っていただきたい。そういう気概を持って、明日からの勉学に励んでいただきたいと心からお願いをいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本当におめでとうございました。